

「真狩地区」現場見学会

真狩高校生26名参加



小樽開発建設部が実施する国営農地再編整備事業「真狩地区」では、ほ場区画の整形や排水条件の改善、担い手への農地の利用集積を行っており、これにより農業の生産性や農産物の質は向上し、地域農業の持続発展につながります。

「真狩地区」の実施をきっかけに小樽開発建設部では、地域の担い手である真狩高校の生徒に対し、農業に関する基礎学力と規範意識を持った優れた産業人の育成を図ることを目的に、平成20年度に真狩高校とパートナーシップの協定を締結しています。

このパートナーシップの取り組みとして、7月20日に真狩高校1年生26名を対象に、「真狩地区」の現場見学会を実施しました。

あいにくの曇り空で、7月にしてはめずらしく気温が低く肌寒い中、生徒達は当部職員の説明を熱心に聞いていました。その後、実際工事中のほ場を見学し、大型の機械が土地を整備していく様子に興味深げに見ていました。

『食用ゆりね』生産量日本一を誇る真狩村。今回見学会に参加した高校生の中から、きっと農業の次の担い手が誕生することでしょう。

